



SHIRANE

2021
March

Vol.
50

3
月号

発行/社会福祉法人白根学園 発行責任者/三木 健太
住所/横浜市旭区白根7-10-6 Tel.045-951-2669 Fax.045-951-7773



◀ホームページはこちら
<http://www.shirane.or.jp>

「ぶどうの実」 笑顔の 贈り物

も し

- [ぶどうの実] 笑顔の贈り物 ①
- [地域生活センター和] 新年会[光の丘]お正月の過ごし方 ②
- [風の丘] 節分 [ぶどうの実] 鬼がやってくる・・・ ③
- [就労しらね・就労のぞみ・ホーム望] 新年会・成人のお祝い
[就労拠点]光の丘ゾーニングアドバイザーによるゾーニング研修 ④
- [麦の丘] 新しい日常 ⑤
- [風の丘] 大寒祭 [風の丘] 初不動 ⑥
- [係長会幹事] 係長研修(経営トップセミナー)の開催 ⑦
- [光の丘] 自主製作品のご紹介 [法人本部] 白根学園周辺ボランティア清掃の実施について
(ハマロード・サポーター認定) [自立サポートセンター歩] 編集後記 ⑧



新年会

地域生活センター和



寒さの中にも、少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年のセンター和の新年会は、コロナの影響もあり、中止も検討していましたが、色々な利用者さんから楽しみにしているといった声が多かったため、試行錯誤の結果、車に景品を積んで各ホームを回り、密にならない様に外でくじ引きをして景品を貰うといった形で1/17(日)に新年会を行いました。クリスマス会で行った職員のコスプレが利用者さんから好評だったので、今回も職員がコスプレをして各ホームを回りました。

年明けのまだ寒い時期でしたが、皆さん外に出てくじを引いて、真剣な表情で景品を選んでいる姿は、寒さを忘れてしまっているのではと思わせるほど熱気を感じました。くじ引きの最後にそれぞれのホームで記念写真を撮ったのですが、欲しい物を手に入れてとても満足な顔の方や、狙っていた景品が当たらずに少し残念な表情をしている方など色々な表情を見る事ができました。残念な表情をしていた方も、「あっちが欲しかったけど、選んだこっちの景品も欲しかったからよかった」と、どの景品でも嬉しいと仰ってくださる利用者さんが多かったです。

今年度はコロナで例年通りの余暇ができず、利用者さんの楽しみが減ってしまう事が多かったです。なんとか工夫をして余暇を提供することで少しでも利用者さんが楽しめるようにと活動していました。コロナが落ち着いて皆さんが集まることができるようになり、沢山の皆さんと同じ場所で行事を行い、再び沢山の笑顔が見られるようになるまで、今後もコロナの状況にあった余暇を考えていきたいと思っております。

地域生活センター和 田中 清久



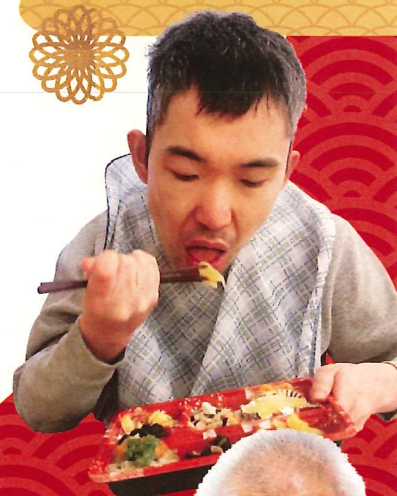
お正月の過ごし方

光の丘

「皆様今年のお正月はどのようにお過ごしでしょうか？」光の丘では、寝正月状態でした。外出を少なくユニットやホーム内で過ごして頂いています。そんな正月でしたが、毎年恒例のお正月メニューがありました。お正月メニューではおせちとお雑煮、そしてデザートプリンが出ました。減りに食べられない物だったので利用者の皆さんは食事が届くまでワクワクしていました。届いた時には見慣れない物に眼をキラキラさせ、美味しそうに召し上がる利用者さんや見たことが無さ過ぎて食べるのをためらう利用者さんもいらっしゃいました。お雑煮ですが、光の丘でも高齢化が進み、利用者さんによってはお餅を詰まらせてしまう可能性があります。その為ふくもちを使用、嚥下が苦手な人でも食べられるようになっています。

神社参拝などが出来ずお正月ならではの外出を楽しむ事は出来ませんでしたが、ユニットでのお正月を楽しめてよかったですと思います。こんな正月もたまにはいいと思いました。

光の丘 森脇 壮太



風の丘 節分



今年の『風の丘』の節分は、職員が利用者さんに節分の話をしている途中で、職員扮する鬼が邪魔しにやって来たところを、利用者さんと職員みんなで追いました。
途中から「コロナ、あっちいけー」などの掛け声も聞かれ、マスクをしても分かるくらい、楽しそうな笑顔で溢れていました。早く、マスクなしで皆さんの笑顔を見ることができるといいですね。

風の丘 草野 幸平



鬼がやってくる... ぶどうの実

今年は2月2日が節分の日。ぶどうの実では夕方に鬼がやってきました。各ユニットに鬼がやってくると、子どもたちは用意していた豆で勇気を振り絞り、鬼にめがけて投げて外に追いやっていました。今年もぶどうの実には福がやって来そうです。

ぶどうの実 坂田 浩明



新年会・成人のお祝い

例年はホテルを会場に行っていますが、本年度は、各事業所内に会場をつくり実施しました。手作り感のある温かいお祝いが出来ました。

就労しらね 仲宗根 海樹
就労のぞみ 高橋 一平

就労しらね

就労のぞみ

ホーム望

いくた ゆうたろう
幾田 悠太郎さん(就労しらね)



こうの みゆうた
河野 未勇太さん
(就労しらね/ホーム望)



新春・書初め大会(就労のぞみ)



自治会長よりお祝いの言葉



のぞみ神社
開運オリジナルおみくじ(就労のぞみ)



光の丘

ゾーニングアドバイザーによるゾーニング研修

in就労センター

いくらやっても万全とは言えませんが、準備しておく備品や心構えを知ることが出来ました。
(ゾーニングとは、感染症が発生した場合に施設内を危険区域と安全区域に区分する感染症対策です)

ホーム玄関



ホームスタッフ室前



就労のぞみ



新しい日常

麦の丘



“新型コロナウイルス”という言葉がニュース等でよく耳にするようになった昨年の三月から一年。この一年間は、自粛が求められ楽しく外出する雰囲気ではなく、”ソーシャルディスタンス”等、今までの生活を一変させられてしまいました。麦の丘においては感染対策を講じつつも、どこか他人事のように感じていた”コロナ”が法人内で猛威を振るわせ、対策の重要性に気づかされました。

現在麦の丘で行っている対策としては、食事は少人数にして飛沫防止フィルムに囲われた座席で食べる。玄関を始め各所に手指消毒用のアルコールを設置。非接触型体温計で毎朝全員の検温。など出来る限りのハード面の整備。その上で利用者さん・職員がマスクを付け、定期的な手指消毒、必要に応じたフェイスシールドの着用。など利用者さんにも協力してもらい全員で感染に気を付けております。

麦の丘は「パン屋」でもありますので、日中活動は製パン・販売・納品を主に行っています。このような状況の中、パンを作り続けて良いのかと不安や疑問もありましたが、出来る限り変化のない日中を過ごせるようにしていきたいという想いと、引き続き販売・納品して欲しいと言って頂いた取引業者様の言葉を受け、例年の半分ほどの生産量ではありますが製パン作業を継続する事が出来ております。

販売に行く際は、①体温・体調変化はないか。②定期的な手指消毒。③マスクとフェイスシールドの着用。④商品・お金の受け渡しは手を触れ合わない。と決め販売に行っています。販売へ行く事は利用者さんにとってとても楽しみの一つになっており、前日から「明日は販売だ!」と嬉しそうに話している姿がみられます。販売から帰り「全部売れたよ」と嬉しそうに教えてくださる姿もみられ、自分が作ったパンをお客様が買ってくれるという事は利用者さんにとって、達成感やモチベーションの向上に繋がっているように感じます。

また、昨年度よりパン作業だけではなく新たに余暇活動も実施しています。パンの注文日を調整し、火曜日の午後を”レクの日”と設けることとしました。調理をする日や音楽を楽しむ日など一ヶ月の予定を決め、利用者さんに希望を聞き季節にあったレクリエーションを行っており、現在はコロナ対策を講じた企画を楽しんでいます。

一番人気のレクリエーションは調理です。パフェ・プリンアラモード・ホットケーキ・恵方巻・フォンダンショコラなど、利用者さんからの難しい希望を試行錯誤しながら楽しく作っています。

コロナの影響で楽しみが減ってしまっていますが、コロナ対策をしっかり行った上で以前と変わらないように過ごし、これからも利用者さん・職員の笑顔が溢れる麦の丘でいたいと思います。

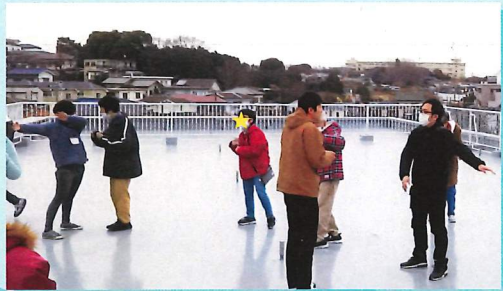
麦の丘 石黒 究人
渡邊 成実



大寒祭 風の丘

1年で最も寒い季節、大寒(だいかん)。日本では厳しい冬を乗り越えるために、寒中水泳や大寒卵など様々な風習が生まれました。今年の風の丘の大寒祭は、寒さやコロナに負けないように、皆で体操を行い体を動かし、温かいぜんざいを食べて楽しく過ごしました。コロナ禍の中で、行事や、体を動かす事が難しくなっていますが、今年は、屋上、2F、4F各フロアの3か所に分散して、密を避ける工夫をして実施しました。やはり、皆でやると出るんです、笑顔が。

風の丘 得田 翔



初不動

風の丘

令和3年1月28日今年最初の「不動の日」に、林光寺と白根不動で風の丘恒例の「初不動だるまの販売」を無事に行う事ができました。昨年はコロナウイルス感染防止の為に、西の市も中止になるなど、今回も開催が危ぶまれましたが、規模を一部縮小する事で出店できる運びとなりました。販売員や商品のアルコール消毒をするなど、衛生管理も徹底して行いました。そのおかげか、午後には雪がちらつく天候の中でも、多くのお客様にだるまをお買い求め頂けました。

風の丘 安西 佑実子



係長研修(経営トップセミナー)の開催

係長会
幹事

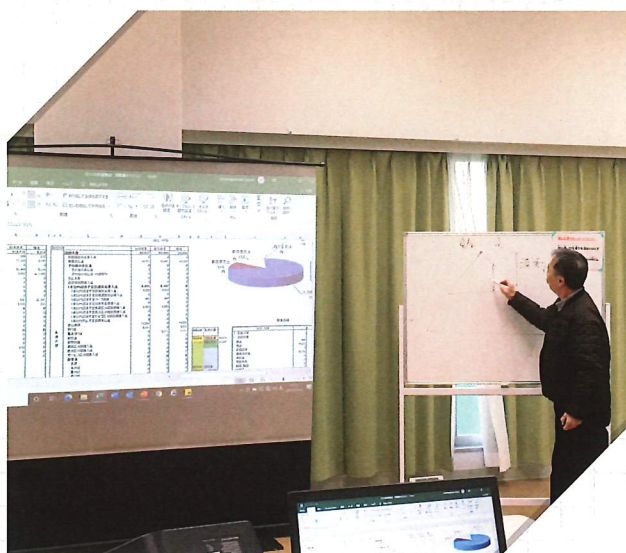
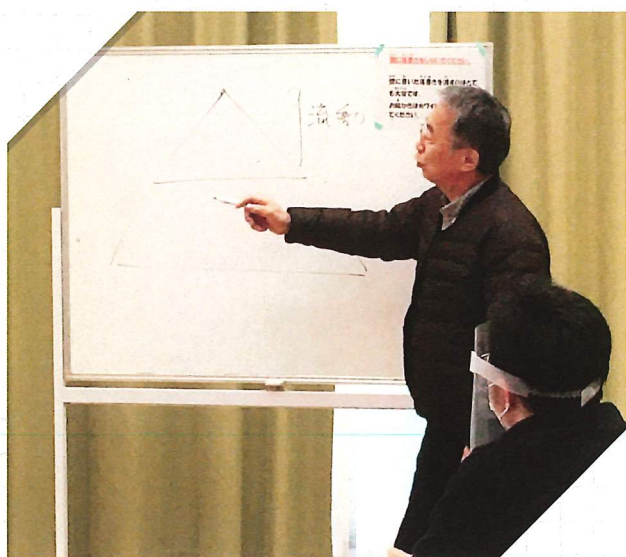
2021年1月20日(水)に、今年度の係長研修(経営トップセミナー)の3回目が川北施設長を講師として開催され、11名の係長が参加しました。今年度は、既に6月、7月に坂田課長、磯貝学園長から係長研修が行われています。

今回の研修は、フェイスシールドを着用して会場を広く使用し、感染症への配慮の元実施いたしました。白根学園の運営面や経営などを数字から見て分析する研修で、人件費の考え方や時間外についてなど具体的な事例を挙げ説明いただいたので、非常に分かりやすい研修となりました。

研修でのアンケートでは、「施設運営の中に1人1人の意識改革の重要性を感じた。」「利益や数字だけを考えて運営するものではないが、逆にそれを理解しない運営では法人として成り立たないと感じた。」「人がいないからできない、忙しくてできない、従来はこんなではなかったなどの不平不満ばかり言っても仕方ない。どうしたらできるのか、やり方を変えてみるなどできることがあると思った。」「思いつくことは容易だが実行に移すこと、結果を残すことは大変なことだ。」などの意見があり、「どうしたら改善できるのか、自分の事業所でできることがないか」と早速事業所に持ち帰り実践していけるよう取り組む意見がありました。

今後管理職になっていく視点からも今回に限らず、もっとたくさんの職員へ研修を実施してほしいとの意見が多く聞かれ、ぜひ継続して研修をしていただきたいと思いました。

係長会幹事 阿久津 大柱



わかりやすい
研修でした!



自主製作品のご紹介

光の丘



新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年度の行事は中止になりました。利用者さんが頑張って作った自主製作品の販売の機会がなくなってしまったので、学園の職員や利用者様、ご家族の皆様には発表場も兼ねて販売コーナーを広げました。場所は、光の丘カフェル・チエにて展示しています。皆様是非手に取ってご覧ください。

光の丘 湯尾 光美

白根学園
周辺

ボランティア清掃の実施について

(ハマロード・サポーター認定)

法人本部



地域貢献事業の一環として、白根学園(白根7丁目)周辺の約300メートルの市道について、白根7丁目付近の5拠点(光の丘、ぶどうの実、就労センターしらね、歩、和)及び法人本部職員、利用者により、月に1回定期的に清掃活動を実施することになりました。

第1回目は、1月26日に15名が、第2回目は、2月17日に11名が参加し活動を行いました。今までは、事業所単独では清掃活動を行っていましたが、これからは、白根7丁目地区の事業所が全体で活動することになりました。併せて、横浜市が進める「ハマロード・サポーター」制度の認定を旭土木事務所から受け、2月1日から清掃活動を行っていきます。

白根学園は、地域の皆様や関係する皆様方のご支援、ご協力のもとにここまで発展することができました。少しでも地域のために役立つように、今後とも地域貢献事業を進めてまいります。

法人本部 山出 一正

編集 後記

年が明け、日脚伸び立春の候、気温の差で体調管理が難しい季節となってきました。昨今はCOVID-19(新型コロナウイルス)の影響により、2回目の緊急事態宣言が発令されています。

日々の生活では白根学園の職員、利用者の皆さまもそれぞれが感染症対策を徹底し、ささやかに行事や活動を行っています。大変な世の中ではありますが、利用者の笑顔に私たち職員も癒されています。これからも、福祉を支えてくださっている方たちへの感謝を忘れず、アフターコロナの世の中を願いながら、一人ひとりが安心安全で充実した生活を送れるよう、今まで以上に尽力していきたいと思っております。

自立サポートセンター 歩 日高 星愛